

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和5年12月20日 第171号

熊本に行ってきました

熊本に「鼻ぐり井出」という施設があります。「牛の鼻輪の形をした堰」という意味合いになるのですが、江戸初期に加藤清正が作らせたという用水路の一部で、その特殊な構造から阿蘇の火山灰で水路がふさがることがないようにしているというもの。事務所での雑談の中で、いつか見に行きたいと話したところ、「すぐに見に行けばいい、仕事は任せろ」とスタッフに言われたので、熊本に行ってきました(実際は航空券やホテルの手配で3週間後の出発でしたが)。



谷底にある特殊な形の水路です。

せっかく熊本に行ったので、阿蘇をレンタカーで廻ってみました。カルデラという特殊な条件の元で形成された山並みのせいか、栃木では見かけないような山の形が興味深かったです。

麓には湧水が沢山あり、100名水の1つも訪れることができました。背中を押してくれたスタッフさん、ありがとうございました。

現地に着くと、想像していたよりも遥かにスケールの大きな構造物でした。深さが10m以上あるので直にそばで見ることにはできないのですが、足を実際に運んだからこそ、現地の周辺の地形からその作りの理由が何となく分ったりすることもあるものです。今回はこの施設の構造については、より謎が深まりましたが、貴重な体験でした。



快晴の青空のもと、阿蘇を廻りました。



お店に出せそうなブロッコリーです。

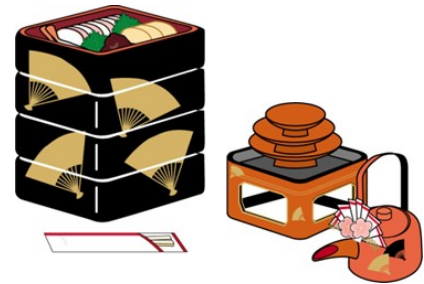
我が家の畑
今年初めてブロッコリー、キャベツ、白菜を植えました。種から苗を作るところから始めて、やっと収穫に漕ぎつきました。
やはりしみじみと嬉しいですね。
残暑厳しい中での苗づくりでしたので、うっかり水やりを忘れて枯らしてしまったり、毛虫に葉っぱをすべて喰われてしまったりと失敗の連続でした。
葉っぱは虫食いでロボロボですが、ブロッコリーは形の良い綺麗なものが採れて大満足です。

“つながらない権利”によって勤務時間外の連絡を拒否したいと思っている人の割合は72.6%～連合の調査結果から

テレワークや副業などの広まりから働き方が柔軟になった一方で、勤務時間とプライベート時間の区別がつけづらくなってきています。連合が実施した、勤務時間外の業務上の連絡に関する意識や実態、“つながらない権利”に関する意識調査から注目すべき点をご紹介します。

- ・「勤務時間外に部下・同僚・上司から業務上の連絡がくることがある」72.4%。その頻度は、「ほぼ毎日」(10.4%)、「週に 2～3日」(14.3%)、「月に2～3日」(12.1%)、「月に 1 日以下」(17.9%)。業種別にみると、[建設業](82.7%)が最も高く、次いで[医療、福祉](79.6%)、[宿泊業、飲食サービス業](78.0%)となっています。
- ・「勤務時間外に部下・同僚・上司から業務上の連絡がくるとストレスを感じる」62.2%。また、その連絡の内容を確認しないと、内容が気になってストレスを感じると回答した人の割合も、60.7%ありました。同様に、取引先からの連絡については、59%の人がストレスと感じているようです。

- ・「“働くこと”と“休むこと”の境界を明確にするために、勤務時間外の部下・同僚・上司からの連絡を制限する必要があると思う」66.7%。また、「取引先からの連絡を制限する必要がある」と回答した人の割合も67.7%ありました。
- ・「“つながらない権利”によって勤務時間外の連絡を拒否できるのであれば、そうしたいと思う」72.6%。一方で、「“つながらない権利”があっても、今の職場では拒否は難しいと思う」と回答した人は62.4%でした。



勤務時間外に仕事上のメールや電話への対応を拒否できる権利、いわゆる「つながらない権利」は、日本では法制化されていません。法制化されたとしても、業種によっては、特殊性や緊急性によって、権利を十分に行使できない可能性もあります。また、拒否することによる勤務評価やキャリア形成への悪影響を心配する労働者もいます。

権利を行使したい反面、行使することによる不安を強く感じる人は多いでしょう。今後どのように法整備されるのか、注目です。